■ＳＵＢＡＲＵ　環境保全自主取り組み計画

第5次環境ボランタリープラン（2012～2016年度）

【3】公害防止・有害化学物質使用削減

領域	項目			2016年度までの目標・取り組み	2016年度 目標	2016年度 年度実績	2016年度 評価
A クリーンな商品	低排出ガス化	自動車	◆ 大気環境改善のための低排出ガス車の導入を推進	◇ 日本：2005年基準排出ガス75%低減レベル 認定車を拡大（ＳＵＢＡＲＵ生産車） ◇ 海外：各国、各地域大気環境改善のための低排出ガス車の導入を推進	・引き続き、地球規模での排出ガス低減を図るために、各国、各地域の最新排出ガス規制、低排出ガス制度に対応した開発を推進する。	・欧州向けレガシィでEURO6c法規対応の開発を完了した。リアルワールドでの排ガス抑制に向けた開発を推進中。	○
	車外騒音の低減	自動車	◆ 燃費向上・排出ガス低減との両立を図った騒音低減の技術開発を推進	◇ 市街地などでの走行実態を考慮した騒音低減の技術開発を推進	・実際の市街地走行において、環境騒音を低減できる車種開発を進める。	・燃費性能の向上を図り、低騒音タイヤの展開を拡大させ、走行騒音の低減を推進した。	○
	環境負荷物質の使用低減		◆ 環境負荷物質の管理拡充および、更なる低減を推進 ◆ 海外：EU指令など各種法規の対応を遵守	◇ 製品含有化学物質の管理強化 ◇ 環境負荷のより少ない物質への代替技術の開発推進	・IMDSによる化学物質管理強化の一環で、全品番調査に向けた準備を推進する。 ・環境負荷のより少ない物質への代替を推進する。	・IMDS全品番調査に向けた準備を進め、化学物質管理強化を推進した。 ・環境負荷のより少ない物質への代替を推進した。	○
	生産工場における環境負荷物質の管理と排出削減	自動車	◆ 自動車生産ラインにおけるVOC(揮発性有機化合物)の排出量原単位（g/㎡）を更に削減	◇ VOC排出量原単位を47.8g/㎡以下※にする（排出量原単位を2000年度比▲48.1%）	・シンナー回収装置改善等を継続し、年度で47.8g/㎡以下とする。	・年度の実績は47.7g/㎡で目標達成。	○
			◆ PRTR法対象化学物質の環境への排出量削減を継続	◇ PRTR法による指定化学物質を把握･管理すると共に、更なる削減を推進	・PRTR物質の集計管理を継続。	・PRTR物質の集計完了。	○
			◆ 環境上の構外流出事故・苦情・法基準値超過の発生ゼロを目指した活動を推進	◇ 環境リスク低減活動などを通じて、環境事故･苦情･法基準値超過のゼロを目指した活動を推進 ◇ 上乗せ自主基準値を設定し、小さなリスクの撲滅活動を推進	・構外流出事故、環境苦情、法基準超過、いずれも「0件」を達成する。 ・環境事故・苦情の未然防止に向け、設備面での改善を推進するとともに地域・住民へのコミュニケーションも強化する。	・環境苦情2件発生。対策処置は完了。 ・構内流出事故1件発生。対策処置は完了。 ・基準値超過1件発生。対策処置は完了。	×

※ 2014年度以降のVOC排出量目標値は、生産台数の変動に伴い年度目標値を修正しました。［2016年度：従来値47.4g/㎡⇒修正値47.8g/㎡］